

練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第6回）「表現力の育成」部会 要点録

開催日時	平成21年9月28日(月) 午後4時10分～午後6時10分	
会場	練馬区役所東庁舎5階 501会議室	
出席者	委員	村松賢一、苅部一夫、片柳博文、山口義一、武井和幸、井上康子、武者裕子、三浦秀樹（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	五十嵐浩子 統括指導主事、谷川拓也 指導主事

部長

第6回の小中一貫教育資料作成委員会を始める。回を重ね皆さんに知恵を出していただいたことで、少しずつ形になり前半戦が終わろうとしている。今日は大方の形をイメージできるようにしたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

アドバイザーからご挨拶をいただきたい。

アドバイザー

冒頭の挨拶は省略する。今日もよろしくどうぞ。

部長

それでは事務局から本日の資料の説明をお願いしたい。

事務局

「小中一貫教育資料中間報告書について」は他の部会と内容を確認、調整する中で項目を見直し資料作成の手順と構成イメージを書いている。大きな項目が六つあり、それぞれ(1)部会の基本的な考え方。(2)部会として捉える表現力の定義と狙い。(3)各学習期の児童生徒像(4)学習期を通じて指導する内容、体験させたい活動(5)表現力を構成する重点の項目(6)重点項目の各学年における学習内容・活動としたい。

(6)はキャリア教育の部会で作ったものを配布しているのでイメージしてほしい。(3)は部長、副部長、(5)は各委員に資料を作成していただいているので後ほど協議していただく。(2)は私が資料を用意した。(4)は(6)ができてからの作業になる。

部長

質問がなければ進めていく。「小中一貫教育資料中間報告書について」に従い形を作っていくたい。大きく1(前出(1)～(6))と2とあるが今年度やるのが1で2は来年度の作業になるということでしょうか。

事務局

そうだ。

部長

(1)については答申に書かれているものをそのまま使うので、すでにできあがっていると解釈する。(2)はこの部会が目指す児童像で、事務局からの提案となる。足りない内容や表現についてチェックしていただき意見を伺いたい。それでは読み上げる。(読み上げ内容省略)読み終わったがどうか。

事務局

表現力は定義が難しいということでこれまでのアドバイザー、各委員の言葉を中心に内容を組み立てた。よって最初に「役割」ということで表現力のイメージを固定させたので了解いただきたい。狙いについては本部会でもまだ最終形が固まっていないので人間関係の向上ということでもいいのではないかと考えている。空欄を設けているのは6つの柱について触れた方がいいかと思いついてある。

アドバイザー

表現力の定義が難しいとのことだが、各委員の資料のなかにも表現力はこうだと簡潔にまとめたものがあり、合意できるものだと思う。

一応定義らしきものはつくれると思うし、役割を述べる前に定義がないと現場では混乱するのではないか。

委員

(1)の部会の基本的な考えのなかの「表現力は自分の思いを正確に相手に伝える能力であり、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある。」となっており、このあたりは本部会でも定義として確認できているのではないかと思う。

委員

私も定義しておくべきと思う。表現力は伝える力として共通認識しているので、あとは「何を」「誰に」「どのように」という手段や形式を明らかにしておく。その上で事務局の提案したこんな意義や効果があるという形でいい。「何を」は知識や意思、思いであるということや「誰に」は理解されなくてもその人の内面が他の人に分かたり伝わったり、「どのように」は言語表現だけではないということを皆で共通理解して、しっかりと謳ってはどうかと思う。

部長

他の意見はないか。それでは表現力の定義として「表現力は自分の思いを正確に～(省略)」という文言や委員の資料のなかにある「自分の気持ちや考えを最も適切に効果的に表現する力」「思いや考え、情報を適切な言葉に置き換える能力」といったあたりを使い定義するということでお願いしたい。

次に狙いだが事務局からは最終的に人間関係づくりに収れんされるという提案だがこれでもいいか。人間関係づくりだけでいいのかという点などご意見いただきたい。

委員

人間関係づくりが土台にあるにしてもそこを目指すのではなく、本部会では発信を中心にやるということだったので、自分から考えて発信することを各期の発達段階に応じてできるというのが大きな狙いとなるのではないか。

委員

人間関係づくりになると伝え合う要素が要求されると思うので今の意見に賛成。絞ったほうが伝わりやすいと思う。

部長

人間関係づくりも当然だが、この部会では発信する力、プレゼンテーションを中心に考えているので一番重きを置くべき狙いとなるところを…。

事務局

プレゼンテーションという意味で調べたことを効果的に伝えるというような文章を少し加えたいと思う。

委員

人間関係というとキャリア教育なども皆入ってしまう上位概念で、結論としては大きすぎるのでその下の部分でいいと思う。中学3年生ではこういうふうになれたらいいというのがあって、他の力とも相まって副次的に関わりが深まったりする。表現力も一部だがそれだけで人間関係を作る訳ではない。

アドバイザー

なぜ表現力を特別に取り上げてやるかを説明しなくてはいけないということ。表現がなぜ必要かは書き出すといろいろないいことがすぐ出てくる。人間関係づくりを円滑にするために表現力を鍛えるためではない。

ただ自分に対する気付きや自己形成というのは表現力の非常に大事なところだと思う。伝える力が大事な理由の一つは相互理解であり、その過程のなかで自己形成という教育上重要な課題にもこたえる事ができる。人間関係作りはそれによってもたらされる効果の一つなので、三つ並べて書くことではないかと思う。

部長

私も同感だ。表現することで自分自身が伸び、力になっていくということが生きる力の基になっている気がする。今のような話で、再度狙いをまとめていただきたい。

委員

最後の狙いは一文でなくいくつか箇条書きになってもいいと思うが。

委員

やはり「人間関係作りが進められることを期待する」は最後のまとめとしてはまずい。その前までをいかして「多様な機会を保証することにより、自らを素直に、率直に、主体的に表現する力を伸ばし、結果として自分らしさを見つけたり、自信を持ったり、相互理解が進んだりする」それが私たちの持つ表現力を身につけた子どもの姿であるといった文章でどうか。

事務局

ありがとうございます。

部長

一応区切りをつけ、(3)の「各学習期の児童生徒像」の提案をさせていただく。Ⅰ期とⅡ期は私が原案を書き、Ⅲ期は副部長に書いてもらった。Ⅲ期は文字数がかなり多かったので、私の方で勝手に縮めた。同じように読み上げるのでご意見いただきたい。(読み上げ内容省略)

大きな分け方として第Ⅰ期は表現意欲の醸成期、第Ⅱ期は効果的な表現法の取得期、第Ⅲ期は表現を通した思考力や感性・情緒の伸長期としたがこの位置づけについてはどうか。

委員

前にも出たが高学年ぐらいになると伝える意欲が下がる傾向がある。低学年の頃は人の目や間違えることを気にしないているが、だんだんと周りを意識して言えなくなっていくものと思う。そうするとⅡ期では伝える側のことも意識しながら、それでも表現しようとする力や意欲を高めていく何かが必要なのではと思う。

部長

表現意欲の問題はこの部会でも根底に絶対必要ととらえており、第Ⅲ期まで通して意欲を高めていく指導はしていかななくてはならない。

しかし(3)は各学習期の発達段階で一番適時性のある指導の視点を明確にするためのものかと思う。確かにⅡ期は表現意欲が一番下がる時期で、乗り越えられればその後うまくいくかもしれないが、乗り越えられなければなかなか取り戻せないという事実がある。どのようにしたらよいか。

委員

第Ⅱ期の「効果的な表現方法の取得期」というのはとてもいいと思う。言葉で表現するのは苦手だが、何かを作って見せながらなら発表できるといったいろいろな表現方法を知っていく。

Ⅲ期ではさらにそれを生かし自分自身の発見、他者理解へと発展的になっていく。こんな表現方法もある、こういうこともできるというのはどうしても教えていかなければならないので、発達段階に応じたものでいいと思う。

委員

Ⅲ期は私が原案を書いた。表現に絞ってもいいのではと思ったが、Ⅱ期とⅢ期の違いが曖昧になってしまうので情緒の部分にも踏み込んだ内容を入れている。基本に考えたのはPISA型の

学力観で思考力、判断力、表現力は一体のもので複層的に絡み合いながら発達するというイメージでまとめた。

芸術表現には触れられておらず言語表現中心になっているが、人とのかかわりのなかで感性が育つことを考え芸術教科も含めて考えられたらいいという気持ちは入っている。

部長

表現スキルの獲得が最終目標ではなく、思考力や感性・情緒の基盤となるものを高め豊かにするという人間としての成長を表現することの最終的な狙いにしたいのでⅢ期の位置づけはこれでよいと思う。アドバイザーからご指導いただきたい。

アドバイザー

I期は学校生活や家庭生活を題材にした自己表現、身体表現などいろいろな活動がイメージされる。Ⅱ期の活動としてはICT機器やソフトを使いながら調べ学習の成果を発表するイメージ。Ⅲ期はイメージがもちにくいのだが、具体的な活動としてどんなものが考えられるか。

委員

表現をする際に言葉はもちろんだが絵でもできるなど、いろいろな手段・方法・形式があるということをとくさん経験させるのが第Ⅱ期と位置付けてほしい。第Ⅲ期は相手意識なども含め、よりよく伝えるためにどのような手段・方法・形式が最もふさわしいか考え、選び出せる時期として位置付けると活動が少し見えてくるのではないか。

アドバイザー

自分が言いたいことに最もふさわしい表現形式を選ぶということは、これといった具体的なイメージというよりも多様な表現の形になるということ……。『論理』というものがキーワードになっていると思う。

委員

例えば『悲しい』と表現するとき、理由や根拠など材料を用意して、よりよく伝えることを考えるようなことが第Ⅲ期の活動では重要なのではと思う。言葉かもしれないし身体表現かも知れないし音かもしれない……。

アドバイザー

感性・情緒とあるので悲しい気持ちを表現するのも入ってくると思うが、二学年で絞るなら論理的表現という方がすっきりすると思う。ただ時期を考えると自分の気持ちをいっぱい表現させたいので、論理一辺倒にもしたくない。「思考力・感性・情緒を表現することを通して伸ばしていく」というような言葉になるか。何を表現するかについては書かれていないようだが。

委員

『何を』については意思や感情、感じたこと、調べた知識、考えを深めたことといったものがそれにあたると考えこの文章を作った。

アドバイザー

よく分かりましたし賛成です。論理一辺倒よりその方がいいと思う。Ⅱ期の内容に関してはⅢ期とかなり重なると思うがどうなるか。

部長

具体的な活動では重なるような気がする。

委員

最終的には発信だけでも(1)に「伝え合う活動」と出ているので、Ⅲ期では相手意識、相手を選んだ伝え方というのを重視することで伝え合いに発展すると思うが。

委員

私も最初は「相手や目的に応じて多様な表現手段を用いて伝え合う」というような文章を入れた。相手意識や目的意識はⅢ期が重要になってくる。

部長

中学校を卒業した時期くらいには社会的に通用する表現力はつけたい。日常生活のなかで一人社会人としてコミュニケーションができる力というのを強調した方がいいかもしれない。

アドバイザー

それは付け加えればいいことで、意思・感情・感じたこと・調べたこと・考えを深めたことがメインでいいと思う。

もう一度整理するとⅠ期は「自己表現」で表現を楽しむというようなこと。Ⅱ期は言葉や歌、絵などを使った様々な表現方法を経験する。その時に表現すべき内容は先ほど出たものですがⅠ期～Ⅲ期でずっと同じになるのか。考えを深めたことや調べたことというのはⅠ期に入れる必要はないでしょうね。

部長

調べるというのはⅡ期くらいからです。皆さんからたくさんの意見をいただいたので、私の方ももう一度考えてみたいと思う。一旦区切りをつけて(6)に進めます。キャリア教育部会が試験的に作ったものを見てもらいたいが、このような形式で表現部会でも作っていく。一番左の学習期にゴシック体で書かれているものが各期の目標となる。

委員

つまり今検討していた(3)の部分を要約して、キーワードを入れていくような形になるのか。

部長

そうです。その次の「自分大好き、友だち大好き、学校大好き」というのは入れるのか。

事務局

これはキャッチフレーズで、あると楽しいが特に必要はないという話だ。キャリア教育は他の部会と違い、最初にキャリア教育にかかわる実践を挙げ、一覧にしてから各期の子供像を検討した。経過の中で各期にキャッチフレーズがあったらいいということになった。キャリア部会からは他の部会でもキャッチフレーズに類するものを挙げてほしいとのことだ。もう1つの特徴の特別支援学級のことについては他の部会への強要はしていない。

キャリア教育に関しては文部科学省や東京都などから各種資料が出ている。それらを参考にしながら、練馬区としての一覧になったということだ。

部長

重視する指導項目のなかに活動例、単元名みたいなものがあるが、各期に身につけたい要素や力を書くのではないのか。

事務局

キャリア部会は実践からスタートしている。ほかの部会では、理論を検討していただいた。

部長

(4)(6)はどちらも内容・活動というのが入っていて違いがよく分からないが。

事務局

(4)は9年間全学習期を通して指導する内容。例えば表現部会では語彙力という話があった。例えば、一年生なら50字の作文を月二回、二年生なら80字で、中学三年なら100文字を何分で書けるというようなものがあれば右の部分につけていただきたい。

アドバイザー

(4)は全学習期を通じて指導する内容でも体験させたい活動でもいいとすれば、我々は全学習期を通じて指導する六つの柱を書き入れればいいのか。全学習期を通じて体験させたい活動というのは本部会では具体的になるので書けないと思うのだが、そういう活動というのはあるか。六つの柱で指導する内容だけでいいのか。語彙力を伸ばすとか組み立てる力とか。

部長

組み立てる力というのは(6)になるのではないのか。

アドバイザー

では全学習期を通じて学習する内容というのはどうなるのか。

部長

うちの部会では語彙力、あとは意欲・態度。

アドバイザー

そういう話も一時あった。語彙力はずっと通してという……。

事務局

I期、II期、III期では分けにくいものを全学習期としていただいてもいいと考えている。

アドバイザー

ただ体験させたい具体的な活動というのはないので、そのイメージは書きにくい。

事務局

書きやすい部会と書きにくい部会がある。各期にあてはまらないものを全学習期にもっていくという考え方である。

部長

ご理解いただけたか。とりあえず次の(5)に行きたい。表現力を構成する要素について各委員からの提案資料があるので読み上げる。まずは「調べる力」。(読み上げ内容省略)提案された委員よりコメントいただきたい。

委員

とりあえず箇条書きで書いてきた。1「自由な発想からテーマを発見する力」というのは先生からテーマを与えられるだけではなく、ゼロからテーマを決めていくことも調べる力に入れたいと思って入れた。2では最後が最も重要だと思うが原因と結果から論理的な考察ができるところまでもっていきたい。

委員

「表現に関する技能」の定義を考えるという宿題をもらったとき、全学習期を通して大前提になる定義だと伺ったので私は文章で作ってきたが、言葉も少なく各期ではどうかというのも見えてこない。「調べる力」では必要なことがたくさん書かれているが……。

部長

本当はキーワードみたいな短い言葉としても必要だし、ある程度説明できるような分も必要。宿題の出し方が明確でなく申し訳ない。

委員

1と2を合体させて書けばよかったか。

委員

これでいいと思う。こういうふう構成され、全然内容が違うのでなるほどと感心した。最初のタイトルは部長の言う短い言葉で、文にあたるのが○。黒ポチは各学習期のところに入ってくると考えて作られたと思う。

部長

主体的にテーマをとということでゼロからというのも大事だと思う。次に「態度・相手意識」の提案に行く。(読み上げ内容省略) 提案された委員からコメントいただきたい。

委員

※はアドバイザーの前回のお話をなるほどと思い、例として入れた。私も各学習期については意識せず最終的なものとして端的にまとめた。

アドバイザー

相手意識というのも表現では大事だが意欲も同じように大事なのでその部分がないと一面的すぎると思う。

部長

他になれば「表現に関する技能」に進む。(読み上げ内容省略) 提案者からコメントがあればお願いしたい。

委員

すごく固いなどというのと、「技能」を「力」にしてもいいのかということ。単語を並べてしまったような定義になってしまっている。

部長

力と技能は使い分けなければならないかと思うが。

委員

技能には訓練によって得られる力という定義もあったので、学習して習得し得られる力だから、「力」でもいいのかと思いついたが語弊はあるかなと感じている。

部長

次に「語彙力」に行く。(読み上げ内容省略) ご意見があればお願いしたい。

委員

語彙力が単に知っている単語の数を増やすということではなく、意味を理解したうえで「適切な言葉に置き換える」という表現になっており、とてもいいと思う。

部長

他になれば「組み立てる力」に行く。(読み上げ内容省略) 何かコメントはあるか。

委員

「組み立てる力」が何を組み立てるのかを考えたとき言葉を組み立てることや、調べたこと

を組み立てて発表するなどいろいろな場面で使われていると感じた。そこで少し強引だが「言語構成力」と「まとめる構成力」として二つに分けて考えてみた。「言語構成力」は国語力に近いもので「まとめる構成力」はどのように話し伝えるかということと捉え、両方定義した方がよいのではと思った。

委員

「言語構成力」と「まとめる構成力」の具体的違いは何か。

委員

自分の話す言葉を組み立てることと、プレゼンするために調べたことなどを上手くまとめて組み立てていくこと。

委員

「言語構成力」は最も適切な言葉を選び出し組み立てることで「まとめる構成力」はプレゼンなどで言葉や図・グラフ、音楽など表現手段をどのように使い組み立てるかと捉えてよいか。

委員

組み立てる力だけだと上手く定義をできないと思い、「語彙力」「調べる力」「表現技能」など他のものも混ざったような感じになってしまった。

委員

建物に例えると「言語構成力」は柱を切ったり形を加工する部分で「まとめる構成力」というのはその柱を組み合わせて一軒の家を完成させるというイメージを持った。

部長

「言語構成力」はよく分かるが「まとめる構成力」は一般的な言葉ではなくあまりイメージはわからないのだが言語以外のことを言っているのか。だとすると「まとめる構成力」の一番上に「自分の思いを相手に言葉で伝えることができる」とあるが……。

アドバイザー

「言語構成力」は順序立てて話したり理由・事例を挙げながら筋道を立てて話したりすることだと思う。私はそれだけをイメージしていたが先ほど聞いていて面白いと思ったのは、言葉の順序立てが1つの柱ではあるがプレゼンテーションになると、ここでどんな資料・図を使うなど全体的に考えまとめる力やセンスが必要になる。そういうふう捉えると納得できる。

委員

プレゼンテーションソフトのスライドが文字であったり動画であったり場合によってグラフや効果音を使ったり、どんなものを盛り込むかという意味でのまとめる力は必要である。

委員

「調べる力」で会得したものを「表現に関する技能」「語彙力」をどう使って相手に伝えるかの「どう使う」の部分かと思っていた。

アドバイザー

情報選択能に関するものは「組み立てる力」には入りにくいので「調べる力」に入れて、あくまで選び抜かれた素材をどうやって順序づけるかということに絞ってもいいかと思う。

委員

内容は分かるが何か上手く表現できる言葉がないかなという印象。まとめると構成するというのが非常に似た意味なので分かりにくくしていると思う。

委員

まとめると組み立てるは少し違うような気がする。まとめたものを組み立てて相手に分かりやすく伝えていくという気がするので……よく分からなくなりました。

委員

定義とすれば言葉の方はどういう順序で話したらいいかで、もう1つは表現するために事実・結果を組み立てる力である。

アドバイザー

事実・結果は「言語構成力」だと思う。「まとめる構成力」はどんな素材をどこで使うかという演出に当たるもの。例えば5人で発表する時にだれが何を分担するか決めたり、群読の例なら全員で声を出すのか1人ずつ声を出すのか、女の子と男の子で分けて声を出すのかを考え組み立てるとこのような演出も非常に大事なことだと思う。

委員

言葉もあるが他の様々なものも組み合わせ最も効果的に表現していくという意味で、アドバイザーからの例なども提案のイメージに入っていると考えてよいか。

委員

そこまではイメージしていなかったが、入る。

委員

あとは中身を少し整理して「まとめる構成力」の具体的な例を増やせばいいと思う。相手がい小さい子なら言葉ではなく絵を使ってなど、TPOに応じた伝え方を考えるというような…。

それから、混じってしまっている項目を「言語構成力」の方に移して仕分けしてやればよい。

部長

駆け足だったが提案してもらったものについて、各委員から意見をいただいたのでそれを参

考に次回に臨みたい。

アドバイザー

5本の柱を分担して提案してもらったが、各学年での指導事項、指導内容の洗い出しも同じ委員が中心にやるのか。皆で考えていこうとするのは大変なことなので、そういう責任体制で今回は原案を出してもらった方がいいと思う。

部長

各委員にそれぞれの柱について考えてもらうことは、私と副部長、事務局の間で合意している。具体的にいつ何をという話はできていないが、できれば今回は（指導内容・指導事項を）並べていく作業はしたい。

事務局

ただ各期の概要の文章をしっかりと固めた上の方が無難かという部分もある。

部長

本日の提案では各学習期に踏み込んだものもありました。今回はマトリックスを埋めるため今日分担した委員にそれぞれ提案していただけるとありがたい。

（第7回小中一貫教育資料作成委員会「表現力の育成」部会 日程確認）

10月22日（木） 16:00～ 場所未定（後日連絡）

事務局

今日検討していただいた重点項目については、どういう形で整理したらよいか。

部長

それについては私と副部長、事務局で話し、皆さんにお伝えしたい。最後に副部長から挨拶をお願いしたい。

委員

お疲れ様でした。また宿題が出る様子ですがよろしくお願ひします。アドバイザーの先生もどうもありがとうございました。

アドバイザー

どうもありがとうございました。